

令和2年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和3年4月30日現在

研究課題名	ロシア語における数詞の位置づけと品詞形成に至る過程 -数詞の形態と他品詞との共通性-	
申請者	氏名	所属機関・職
	鈴木 理奈	札幌医科大学・北海学園大学 非常勤講師

研究成果の概要

数の認識や概念は古くから存在するにもかかわらず、ロシア語文法において数詞の品詞分類化が確立したのは近年の事である。現代ロシア語において品詞は、「名詞」、「形容詞」、「数詞」、「代名詞」、「動詞」、「副詞」、「前置詞」、「接続詞」、「助詞」、「感嘆詞」に分類されており、数詞は独立した品詞の扱いとなっている。しかし、現代ロシア語における品詞分類は、時代により大きな変遷がみられ、なかでも数詞は様々な位置づけをされてきた。本研究では、ロシア語の品詞分類の変遷に併せ、品詞としての数詞の現れと定着に至るまでの過程を、複数の歴史的文法書を元にたどる試みを行っている。

数詞の品詞分類については、最初のロシア語文法書となる M.V. Ломоносов 著「Российская грамматика」(1755年)以降の文法書において異なる見解が示され、数詞の持つ多様性と他品詞との関連考察が重ねられながら、最終的に独立した品詞として確立に至った事が確認できる。数詞は名詞や形容詞等に似通った多様で複雑な性質を持つ為、数詞の成り立ちは他品詞に比べても後期の形成になったものと考えられる。

今後の研究においては、さらに数詞の形態的特性および他品詞との類似性についても分析を行っていきたい。今年度までの研究は学術論文誌に投稿予定である。

共同利用研究において、北大およびスラブ・ユーラシア研究センター所蔵の露文図書や、共同研究室の利用をさせていただいた事に大変感謝申し上げたい。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

北海学園大学「人文論集」論文掲載予定

謝辞有

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

該当なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。